

知識を知恵に変える手順

広い意味で「情報」を保有する努力は、無意識も含め各位が日頃から行っていることであろう。しかし、その「情報」が活かなければ大した意義はなくなる。そこで「情報」を「知識」に変え、さらに「知恵」に変えていく手順について教授するものである。

以下にその概念を示す。【 】内数字は手順序列を示す。

【Ⅰ】データを持つ。

使えるように整理されていない情報を持つことを指す。

（アトランダムに集めたデータなど）

【Ⅱ】狭義の情報を持つ。

データを使えるように整理した情報を持つことを指す。

（データをグラフ化して情報としたものなど）

【Ⅲ】知識を持つ。

次の二つの情報を持つことが知識に変わることを指す。

①因果関係の情報を持つこと

こうしたら、そうなるといふ情報

（「スイッチを押すと電灯がつく」といふような知識など）

②存在の情報を持つこと

「もの」もしくは「情報」が存在するといふ情報

（「そこに建物がある」といふような情報など）

また、このような知識には特性のちがいによる二つの種類がある。

（1）学習による知識；狭義の情報を読むことや聞くことにより得られる知識

（2）体験による知識；体験することにより得られる情報をもつこと（無意識）

【Ⅳ】WANT・NEED・SEEDを持つ。

WANT；こうしたいな—という欲望、願望を持つこと

NEED；これが欲しいという現実的に実現できる要望を持つこと

SEED；これは何かに使えそうだといふ種や手段を持つこと

【Ⅴ】知恵を持つ。

知恵とは、上記のWANT・NEED・SEEDに対して「どうしさえすればよいか」情報を創り出し、把握することを指す。

その内容は次に示すような情報である。

①「何をするために、どうしたらよいか」「どうしさえすればよいか」の目的と手段に関する情報を持つこと

②①をもとに、それを実現するためには、このようにしてやればできるという「落ちのない手順」に関する情報を持つこと

（「部屋を明るくするために、ライターで手元を明るくして、壁にあるスイッチを捜して、見つけたスイッチを押せばよい」という落ちのない手順に関する情報を創り出すことなど）

- ③『あることをするために、どのような「もの」もしくは「情報」の構造のものが**必要か**』の**対象物件とその構造・構成に関する情報を持つこと**

（震度7の地震に耐えるためには、今設計している家には、どのような補強をすれば充分かという物・構造に関する情報を持つこと、もしくはその情報を考え出したり、創り出すことなど）

【VI】知恵を使った結果としての新しい知識を持つ。

上記の知恵を人に説明できるようになると、知恵が「新しい知識（【Ⅲ】に相当する）」に変化する。そして、それを知識として、人に引き渡せるようになる。

（広い意味で情報が活きることになり、しかも共有することでエネルギーが増すことになる。）

このように新しい知識を持った結果を、【Ⅲ】の「知識を持つ」のところへ戻せば、その新しい知識を使って、新しい知恵が出てくるので、それを実行して、また新しい知識を得て、知識のところへ戻してやれば、新しい知恵を生み出すサイクルを持った『W I S D O M ・ E N G I N E（ウイズダム・エンジン）』ができあがる。

そのエンジンを動かすためには知識を知恵に変える方法（手法）が必要となる。

（この「方法」については、各位が通常業務の中で無意識に実施しているであろうと推察するが、より具体的に別報にていずれ示すこととする。）

要するにこの手順を繰り返すことが、「物創り屋」の基本行動であると考えるので、日頃の所作をこのような視点で振り返ってみるのも良いであろう。

さらに各位の「活きた情報」を関係者に渡すことで組織としての力量がアップするので、大いにネットワークを活用して披露しあうことを薦めるものである。

以上